

浜松市美術館 運営についての考え方

令和2年4月1日
浜松市



目 次

1	はじめに	1
2	美術館を取り巻く状況	2
3	浜松市の美術館における課題	5
4	浜松市美術館の目指す方向	6
5	展開する事業	7
6	とりまとめにあたって	12
7	参考資料	13

浜松市美術館運営についての考え方

1 はじめに

浜松市美術館は昭和46年、市民の皆様からの寄附や市費等により自然豊かな浜松城公園内に開館し、これまで570回余の展覧会を開催してきました。また、平成10年には秋野不矩美術館が天竜区二俣の町を見下ろす丘の上に開館、共にそれぞれの館の収蔵品展を始め多くの企画展・特別展を開催し、両館の来館者は340万人に達しました。

浜松市の両美術館は静岡県内最大の都市にあり、多くの浜松市民の皆様のほか、市外や県外からもお越しいただき親しまれてきました。また、近隣の美術館では大規模な企画展を開催できる県立美術館や市立美術館、県内には地域に根差した掛川城二の丸美術館、清川泰次芸術館、独自性を発揮した磐田新造形美術館などもあり、市民の皆様は多様な美術文化に触れる機会が増えています。

そうした中、浜松市では芸術文化の発展に取り組んでいくため、平成22年に新美術館構想を策定し、「明日への希望を見出す美術館」を基本理念に、「優れた美術を鑑賞できる美術館」、「新しいアートの魅力を発信する美術館」、「子供たちの感性を育む美術館」をテーマに多様な取り組みを行ってきました。平成25年には、気軽にアート活動に出会える場として鴨江アートセンターがスタートし、多くのワークショップのほか、アーティストインレジデンスにも力を入れています。このほか、市民の皆様の芸術作品の発表の場であるクリエート浜松では市民の皆様が主催する多数の展覧会が開催されるなど、アートを通じた活動・交流・出会いの機会も増えています。

この度、平成32年度に向けた新たな文化振興ビジョン策定の機会をとらえ、浜松市の美術館としてこれまでを振り返り、現在の施設を活かした美術館としての方向性を示す美術館運営についての考え方をまとめました。

これにより、新たな時代の美術館として、浜松市民の美術文化の振興に一層寄与して参ります。

2 美術館を取り巻く状況

(1) 社会の美術館への期待

近年の美術館の展示会は、日本画・洋画・アニメーションなどの他、デジタルアートや参加型アートなど新たな分野が加わるとともに、会場内では音声ガイドやボランティアガイドによる作品紹介など、多様な手法を用いた鑑賞学習の機会が増えています。施設面では、アメニティスペースを設け、憩いの空間を複合的に設置している施設や定休日を除き、年間を通じて開館している施設も増えています。

また、地域ゆかりの作品を継続的に研究したり、優れた作品を収集・保管したりするため、幅広い職務に対応できる学芸員グループを組織する団体も多くなっています。

生涯学習時代の中、社会教育施設として、子供たちから高齢者まで幅広い世代が美術を通じて地域文化などが学べる参加・体験型の美術館としてもその機能への期待が高まっています。

(2) 浜松市美術館

① 浜松市美術館

浜松市の美術館は、戦後約 20 年の間、市公会堂・市立図書館、市民会館などが不十分ながらその役割を担い運営を行ってきた中、昭和 39 年市民団体からの陳情や作品寄贈・寄付等により建設の協議が進み、昭和 46 年 7 月 1 日、県内初の公立美術館として浜松城公園内に誕生しました。

主な収蔵品としては、内田コレクション（寄贈）を基礎とする 18～19 世紀の伝統的ガラス絵・浮世絵版画（遠江関係版画）を始め、大津絵・泥絵など優れた美術品を収集してきました。収蔵品数は平成に入り 5,000 点、現在では重要文化財(1 点)も含め約 7,000 点となっています。

毎年の展覧会では、テーマを決めた地域ゆかりの作家・作品をご覧いただく収蔵品展のほか、年 3 期（各 40～70 日間）の企画展や浜松市〈市展〉も開催するなど、市民文化の向上に努力してまいりました。

各企画展には多くの美術愛好家が来館され、平成 30 年度には来館者累計が 250 万人に達しました。国内外に通用する一級の美術作品を紹介するとともに、地方の文化芸術を紹介・発掘するなど、県内最大の都市にある公立美術館として、その役割はますます大きくなっています。



開館当時の浜松市美術館

② 施設の長寿命化と浜松城公園長期整備構想

平成 29 年（築 46 年）浜松市美術館は公共施設長寿命化計画に伴い施設の老朽化等の対策として空調設備・トラックヤード棟など、基本的な機能の部分改修を行いました。また、同館は浜松城公園内にあり、公園内では平成 26 年 2 月浜松城公園長期整備構想による長期的な視点により、浜松城公園歴史ゾーン整備基本計

画に基づく浜松城跡などの発掘調査が進められています。今後、こうした構想の中で、魅力ある都市の拠点となるよう共に目指していく必要があります。

③ 浜松城公園内にある美術館

浜松市美術館は、歴史的シンボルである浜松城、日本庭園や散策のできる浜松城公園のほか松韻亭、近隣には中央図書館等の文化的施設も所在し、歴史と文化が融合した都市型公園内にあります。週末には、小さなお子さんと一緒のご家族・友人同士で新緑や紅葉を楽しまれる方、若かりし徳川家康の居城していた浜松城に観光される方、そして美術館に来館される方などで大変賑い、市民が誇る憩いの公園になっています。

こうした歴史と文化に恵まれたエリアの中で、美術館は市民の皆さんと共に美術文化を醸成してきました。このような特性は財産であり、そうした魅力とこの美術館ならではの取り組みを周辺施設と一体となって進め、市民が誇る浜松城公園に期待が持たれます。

《浜松市美術館 収蔵品》



荒井めいぶつ蒲焼
(浮世絵版画)



尾形乾山
鏤絵牡丹唐草文平大鉢



重要文化財
不動明王二童像



和田英作「あかつきの三保」
(日本画)



青服を着た中国婦人図
(ガラス絵)



小出檜重「裸女立像」
(日本洋画)

(3) 秋野不矩美術館

① 秋野不矩美術館

秋野不矩美術館は、浜松市天竜区の日本画家・秋野不矩 画伯（文化勲章受章）の故郷、二俣の町を見下ろす丘の上に建つ美術館で、平成 10 年 4 月に開館しました。

地元出身の同画伯の偉業を顕彰するとともに、地域の芸術文化の振興を図るため、秋野画伯の作品を紹介する所蔵品展の開催や年に数回、特別展・企画展を行うほか、展示室を市民ギャラリーとして貸し出し、市民の創作発表の場としても活用いただいています。

設計は建築家・藤森照信 氏。建物には地元特産の天竜杉を使ったり、壁を漆喰で塗ったりするなど、自然素材がふんだんに取り入れられ、自然との調和に配慮されています。また、展示室の床は籐ござや大理石が敷かれ、履物を脱いで鑑賞するようになっており、他に類を見ない特色ある美術館です（来館者は 90 万人）。



秋野不矩美術館

《秋野不矩美術館 収蔵品》



オリッサの寺院（秋野不矩）



渡河（秋野不矩）

(4) 浜松市の美術館を取り巻く状況

昭和 63 年、さまざまな作品展示に対応できる大型ギャラリー、複数の中型ギャラリー・会議室など充実した施設を有するクリエート浜松がオープンしました。市民の芸術作品の発信の場として、現在では年間 110 回の展覧会が開催され、年間を通して多くの方に利用されています。（所属する会は 90 団体にのぼります。）

平成 25 年には、芸術作品の制作、発表、展示を気軽に行える場として鴨江アートセンター（リノベーション施設）もスタートし、年間 50 回を超えるワークショップや若手アーティストによる長期制作活動も可能としており、創造的人材による文化芸術の創造、発信、交流の場として、市民に広く開かれた活動拠点を創出する場ができました（運営は指定管理）。

このほか、市内のホテル・金融機関・大型ショッピングセンターや個人店舗でも施設の一部スペースを活用した作品展示が行われるなど、気軽に訪問し美術に触れる機会が増えています。

そうした中で、浜松市美術館・秋野不矩美術館は、県内最大の都市にある公立美術館としてその役割を見つめ、美術文化の醸成に一層取り組んでいく必要があります。

3 浜松市の美術館における課題

浜松市の美術館はこれまで多くの展覧会や教育普及活動など、美術館活動に取り組んできました。近年は、施設の老朽化に伴う基本的機能の改修工事として空調設備や屋根腐敗対策を行いました。

今後は、政令指定都市の美術館として更に輝き続けていくため、展覧会・教育普及活動などの充実を図っていくとともに、施設のスペース不足の解消など財政的な面も考慮しつつ課題を整理し、創意・工夫によりミュージアム機能の拡充に取り組んで行く必要があります。

(1) 美術館の展覧会に関する課題

政令指定都市の美術館として、企画展に注力している中、収蔵作品を活用した展覧会も行っています。浜松市の両美術館には、ガラス絵、浮世絵、東洋陶磁、洋画、秋野不矩などの地域ゆかりの作品、約7,500点を収蔵していますが、展示スペースや予算の都合により、特に浜松市美術館では収蔵作品を展示する機会が毎年1か月程度と短くなっています。

今後は、年間を通じてこれらの収蔵作品を観賞できるよう常設展示のスペースを設け、「いつ来ても収蔵作品が鑑賞できる美術館」を実現できるよう検討する必要があります。

(2) 社会教育施設としての課題

教育普及活動は、子どもたちの豊かな情操を育むとともに、初めて美術館に訪れた方や美術館愛好家など、大人にとっても豊かな心や知識の涵養などその活動はとても大切です。幅広い人々が美術の魅力に気づき・学び・伝えられるよう館主催のギャラリートーク・講座・キャプションなどを工夫するとともに、教育機関との連携や市民参加型の取り組みなど新たな視点を加えてチャレンジしていく必要があります。

(3) 情報化の時代に対応した課題

インターネットに収蔵品情報を公開するデジタルアーカイブや美術館活動を記した美術館年報の発行は、企画展の計画や美術館・研究者との情報交換に役立つほか、当市ゆかりの館蔵品を公開することで全国の展覧会でその鑑賞が期待されるなど、社会教育的役割にも寄与できます。

また、来館時に浜松市ホームページを検索する方も多いことから、分かりやすい掲載に努めるなど、情報技術が進展していく中、美術館活動においてもIoTなどを一層活用し、時代に対応した取り組みも行っていく必要があります。

(4) 来館者サービス・施設面に関する課題

毎年、市内・市外から多くの方に来館していただいています。来館者の声には、館内にカフェコーナーや図書コーナーなどのアメニティスペース設置や隣接におもいやり駐車場を増やしてほしいといった意見が多く聞かれます。また、浜松城公園内にある利点をもっと活かし、浜松城の観光や地域・産業との連携など、来館者目線に立った魅力向上に取り組む必要があります。人口減少や高齢化時代・ワークライフバランスが変化していく中で、こうしたことに対応するためには、美術館運営について調査・研究し、他都市の事例に学び浜松に合った形で融合するなど、進取の気性で取り組み、未来に繋げていく必要があります。

4 浜松市美術館の目指す方向

基本理念と方針

(1) 基本理念

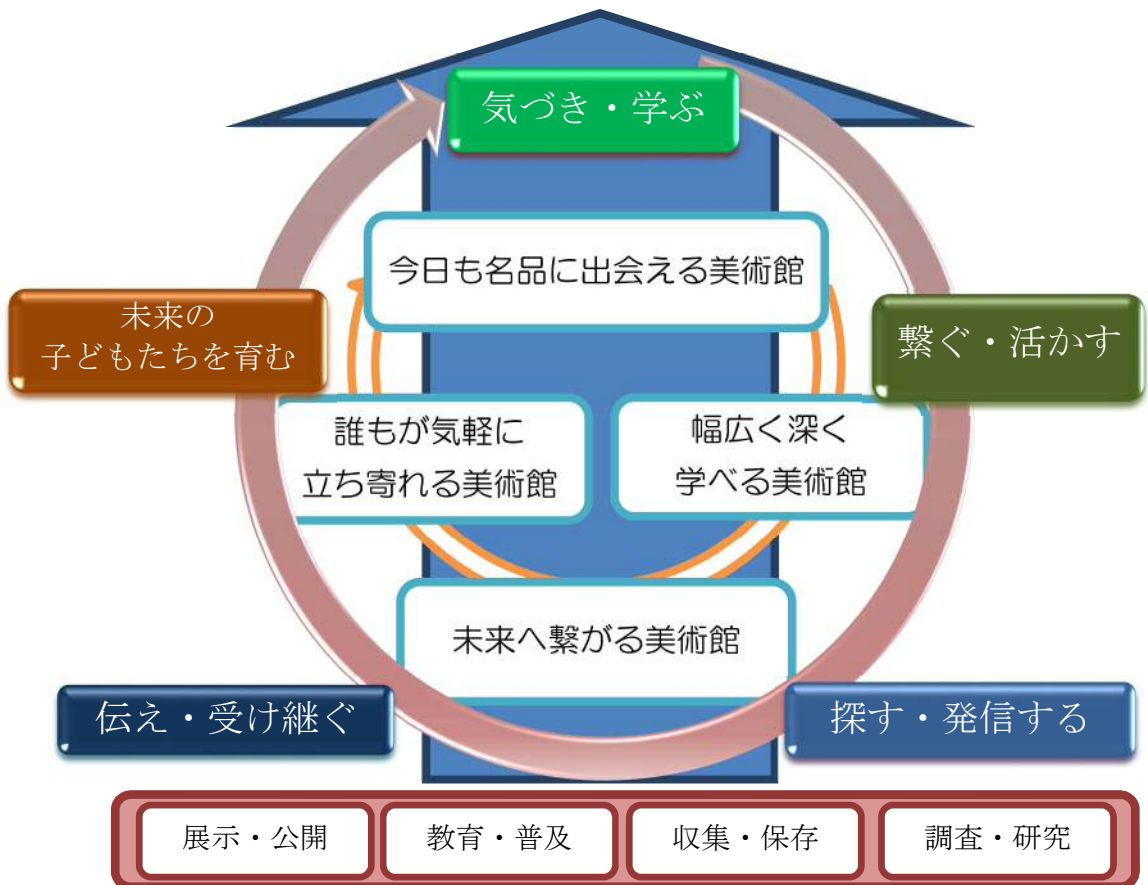
基本理念・方針は、これまでの新美術館基本構想策定委員会や庁内検討委員会の意見を踏まえ次のとおりとします。

〔基本理念〕
「明日への希望を見出す美術館」

誰もが気軽に立ち寄れる憩いの美術館であることで、美術との出会いの場を広げます。また、都市の拠点として国内外の優れた作品や地域ゆかりの作品の鑑賞の機会、人々の参加・交流により市民が心豊かになる美術館を目指します。

(2) 方針

市民協働と美術館活動「展示・公開」、「教育・普及」、「収集・保存」、「調査・研究」を通じて、主に次の4つに取り組みます。



5 展開する事業

1

今日も名品に出会える美術館

静岡県内最大の都市にある美術館として、市民の皆様に国内外の優れた作品や地域ゆかりの作品・多くの館蔵コレクションを鑑賞できる展覧会等を開催し、美術文化の向上を目指します。

《具体的取り組み》

1 優れた作品の紹介

国内外の優れた作品を鑑賞できるよう企画展や特別展などの展覧会を開催し、市民の皆さんの美術文化の向上を目指します。また、開館記念の節目の年などでは、海外の創造都市ネットワーク等を通じた展覧会も計画していきます。

2 地域ゆかりの作品や収蔵品の紹介

地方都市の特色を活かし、地域ゆかりの作品や多くの収蔵コレクションなど、年間を通じて鑑賞できる機会を提供していきます。

3 広報活動

展覧会やイベント情報、教育普及活動や収蔵品情報など、分かりやすいホームページにリニューアルするとともに、チラシやポスターなどのUD化を進めます。また、新聞・テレビ・雑誌など多様なチャンネルで発信できるよう取り組みます。

4 収蔵品情報の公開（デジタルアーカイブ）

新たに導入する収蔵品管理システムにより、インターネットを活用したデジタルアーカイブに収蔵品情報を順次入力し公開していきます。これにより、市民の皆さんの知識の涵養や全国の収蔵品情報との交換、分野・地域を超えた利活用ができ、美術・学術の振興に役立てていきます。

5 美術館年報の発行

浜松市美術館・秋野不矩美術館の企画展覧会や教育普及の取組内容など美術館活動をまとめた、「美術館年報」を発行し、公表していきます。



企画展（日本洋画 150 年展）の様子



館蔵品展の様子

《想定される施設・機能》

常設展示室、企画展示室、収蔵庫、IT機器、講座室、関係者控室、事務室、救護室、授乳室、ユニバーサル機能、燻蒸室、トラックヤード、駐車場

「美術」を身近に感じられるよう、年間を通じて気軽に立ち寄り鑑賞できる憩いの森の美術館を目指します。

《具体的取り組み》

1 憩いの交流エリアの創設

- (1) 公園エリアにある利点を活かし、散策や観光を楽しんだ後も、気軽に立ち寄って美術を感じられるよう無料エリアを設けるとともに、軽飲食ができるゾーンや館藏品情報・近隣の観光情報がわかるブックスゾーン、無料Wi-Fiエリアなどの簡易アメニティエリアを設けるよう検討します。
- (2) 駐車場からの誘導路の整備や園内施設との連携などに取り組みます。
- (3) 観光で賑わう時期、学校がお休みの春・夏・冬休みのほか、多くの方がお休みされる週休日など、これらに合わせて開館できるよう企画運営に努めます。
- (4) 年間を通じて、地域ゆかりの作品や館藏品コレクションを鑑賞する機会を提供していきます。

2 市民参加の〈市展〉の開催

市民の皆さんの創作活動やこれらの作品鑑賞を通じて郷土の文化・芸術の向上に資するため、開館以来〈市展〉を開催しています。今後もより魅力的な展覧会となるよう工夫し、開催していきます。



物販・簡易アメニティエリア

《想定される施設・機能》

常設展示室、企画展示室、IT機器、大会議室、ワークショップ室、アメニティスペース、救護室、授乳室、ユニバーサル機能、案内看板、遊歩道

教育普及活動や市民協働により、優れた作品や地域ゆかりの作品など多様な美術に触れ・学ぶ機会を通じて、幅広く深く学べる美術館を目指します。

《具体的取り組み》

1 教育普及活動

(1) 学校と連携した取り組み

未来の子ども達の情操を培う場として、児童・生徒等に本物の作品を見て、感じ・考える校外学習（参加・体験型）や地域ゆかりの作品を学ぶ講座など、鑑賞学習や造形学習の一助となるよう幼・小・中・高・大学と連携した取り組みを行っていきます。



(2) 「子どもの市展」の開催

幼・小・中と連携して新たに「子どもの市展」を開催します。子どもたちの創造性や子どもの頃から美術館への親しみを育てていきます。

展覧会に応じた対話型鑑賞

(3) 教員向け講座

美術教育の一助となるよう、浜松市内の幼稚園、小・中学校、高等学校の教員を対象として、美術館の展覧会・収蔵品・地域ゆかりの作品などを題材とした「美術館講座」を開催していきます。幼稚園～小学校では、楽しく学び・創造性を育み・授業等で役立つ講座など行います。

(4) 中高校生・大学生向け職場体験

中学生～大学生の職場体験を通じて、美術館の役割や仕事内容などの理解を深めてもらうとともに、インターンシップ・博物館実習（学芸員養成教育）の受け入れを通じて、将来の人材育成にも取り組みます。

(5) アウトリーチ活動

地域の学校や福祉施設等への出張講座では、美術館の収蔵品・地域ゆかりの作品にまつわる講座やワークショップを通じて地域美術の文化振興に取り組みます。



職場体験



出前講座「ガラス絵」

2 地域文化が学べる美術館

(1) 地域ゆかりの作品と文化

地域ゆかりの作品や両美術館の収蔵する作品の系譜に連なる展覧会、参加・体験もできる関連講座など、地域の文化が学べる機会を増やします。

※秋野不矩美術館は、秋野画伯の作品を紹介する所蔵品展を開催します。

(2) 講演会やイベント

展覧会の開催に合わせ、幅広く学べるよう、タイトルに関連した講演会やワークショップなどのイベントを開催していきます。開催にあたっては地域の文化や産業、観光施策や大学など、多様な団体・個人と連携を模索し、市民の皆さんの知識の涵養を図っていきます。

(3) 市民参加型の美術館ボランティア

新たに市民が参加できる美術館ボランティアを募集していきます。収蔵品展のギャラリートークや展覧会のワークショップの補助など当初は少人数からスタートし、優れた作品や地域の美術に触れ、伝えることで、市民の皆さんと共に美術文化の振興に歩んでいきます。

(4) 情報通信技術を活用した理解

展覧会内容を幅広く・深く・学び楽しんでいただけるよう、キャプション・図表・年表等の表示方法・場所などを工夫するとともに、展覧会で作品概要が聞けるアプリ（音声ガイド）・映像機器・通信機器等の情報通信技術を活用して作品の描かれた時代や背景、作者の生涯や意図するところなど、見るだけでなく、聞き・感じて理解が深まる機会を多くできるよう取り組んでいきます。

3 文化施設や他分野との連携

書道・絵画・写真・彫刻など市民の皆さんの様々な作品の展示に対応できるクリエート浜松等、芸術作品の制作、発表、展示の他、多くのワークショップや若手アーティストによる長期制作活動ができる鴨江アートセンターなど、互いにその役割を踏まえつつ、文化芸術の振興に連携しながら取り組んでいきます。



ボランティアギャラリートーク



木材を使ったワークショップ

《想定される施設・機能》

常設展示室、企画展示室、ワークショップ室、ボランティア室、大会議室、講座室、アメニティスペース、救護室、授乳室、ユニバーサル機能

展覧会を企画する際の作品調査や収蔵品の研究、各都市の美術館の取り組みや美術館に期待されるアメニティ空間など、美術館を運営するにあたり、常に新しい視点に立ち未来に向かって調べ・取り組んでいきます。

《具体的取り組み》

1 作品の調査・研究

優れた美術品や地方ゆかりの作品を調べ、企画・展示・解説するほか、約7,500点の収蔵品を後世へ繋ぐ公立美術館として、常に作品の調査や研究を続け、成果の公表を行うことで市民の皆さんの知識の涵養や美術・学術の振興に貢献していきます。

2 美術品の収集

近現代美術の流れを展望できる優れた作品や郷土に関係のある優れた作品のほか、それらの系譜に連なる優れた作品・資料等の収集に努めます。

3 学芸員の育成

美術館活動は美術館資料と学芸員能力の両輪によって成り立っています。「展示・公開」、「教育・普及」、「収集・保存」、「調査・研究」を行っていくには、先輩職員からノウハウを学んだり、他都市の取り組みを研究したりする他、自ら考え・行動する力も求められます。また、重要文化財を保有する施設としてもその能力は必要です。今後もOJTやOFFJTなどを通じて学芸員の人材育成に取り組んでいきます。

4 施設機能・運営の研究

現在の施設機能の中で、憩いの交流エリアや通年の館蔵品展、美術館ボランティアなど新たな取り組みにチャレンジしていく。また、地方自治法の改正に伴う指定管理制度による施設運営、国宝・重要文化財の公開承認施設制度など、現状を踏まえ様々な角度から調査研究し、市民の皆様にとって魅力的な美術館になるよう努めていきます。

5 美術館に寄せられる声

(1) 親切で丁寧な接遇

初めての方、愛好家の方など美術を楽しむ憩いの場として職員研修を行い、親切で丁寧な接遇を心掛けて行きます。また、美術館に寄せられる来館者の声を積極的に収集・分析し、今後の美術館活動に活かしていきます。

《想定される施設・機能》

収蔵庫、燻蒸室、一時保管庫、写真撮影室、会議室、図書資料室、学習室、IT機器、事務室、倉庫、ユニバーサルデザイン機能

6 とりまとめにあたって

これまでの経緯と今後

浜松市美術館	浜松市 ほか
H23～調査研究	平成 26 年 2 月 浜松城公園長期整備構想
平成 28 年度～ 新美術館構想に関する庁内検討会(計 4 回) 魅力アップのアイデア(連携)について 他都市の文化施設について(視察報告)	平成 28 年度 浜松市文化遺産デジタルアーカイブ (中央図書館)
平成 29 年 12 月 美術館協議会 H28 年度取り組み意見交換 平成 30 年 3 月 美術館運営ビジョン初期案に対する意見	平成 29 年 6 月 浜松市市民文化創造拠点施設基本構想 (創造都市・文化振興課) 平成 29 年 6 月 文化芸術基本法の改正
平成 30 年 6 月 リニューアル後 来館者アンケート①型 展覧会「日本洋画 150 年展」 325 人	平成 30 年 4 月 浜松版アーツカウンシル発足 (創造都市・文化振興課)
平成 30 年 8 月 リニューアル後 来館者アンケート②型 展覧会「近藤喜文展」 各 817 人	平成 30 年 5 月 浜松城公園長期整備構想に基づく今後の整備について(緑政課)
平成 30 年 8 月 美術館協議会 H29 年度取り組み意見交換	平成 30 年 7 月 浜松市民広聴モニターアンケート 218 人(創造都市・文化振興課)
平成 30 年 10 月 リニューアル後 来館者アンケート②型 展覧会「西洋絵画展」 各 100 人	平成 32 年 浜松市緑の基本計画(緑政課)
平成 30 年 11 月 美術館協議会 運営の考え方(案)意見交換	平成 32 年 浜松市文化振興ビジョン (創造都市・文化振興課)

《庁内検討会所属》

所 属			
企画課	文化政策課	生涯学習課	文化財課
次世代育成課	産業振興課	教育委員会指導課	美術館

《浜松市美術館協議会》

氏 名	職 名
瀧口 裕章(会長)	元木下恵介記念館館長
原田 哲良(副会長)	浜松市立中部中学校校長
内山 正己	浜松市美術協会理事
片桐 弥生	静岡文化芸術大学文化政策学部教授
齊藤 昌子	こども造形アトリエ どんぐりの森主宰
大城 眞弓	元浜北文化協会書道部部长
村松 厚	鴨江アートセンター館長
中村 さつき	浜松市立幼稚園会会長

7 参考資料

(1) 美術館協議会の意見（抜粋）

美術館長の諮問に応じて、美術館の事業やあり方など運営に関する事項について美術館長に意見・提言する附属機関（浜松市条例による）。

○平成 29 年 12 月 14 日平成 29 年度第 2 回美術館協議会

【今後の美術館の方向性について】

- ・表題・展示方法・鑑賞ワークショップなど、子どもや若い人の来館を促す工夫がほしい。
- ・中学生まで 1 回も美術館に来たことがない生徒もいる。なるべく早い段階で美術館に来てもらえるよう検討してほしい。
- ・子ども向けの解説であるが、大人が見ても楽しめる説明があるといい。
- ・出前講座など学校に来て作品を紹介してもらえる機会は良いと思う。
- ・展覧会の見どころをもっと発信してほしい。
- ・体験型ワークショップはいい試みと思う。継続・系統的に開催してほしい。
- ・浜松城公園を利用する人達にも美術館に立ち寄ってもらえるような仕掛けをしてほしい。
- ・大学・アートセンター・他機関との連携など、文化・観光とのコラボが必要と思う。
- ・来館者に展覧会の魅力が伝わりにくい。もっと作家・作品の魅力を伝える努力が必要。
- ・展覧会のタイトルも内容を的確に伝える工夫がほしい。
- ・有名な作家の展覧会は必要。年間 1 回は目玉となる企画がほしい。

【施設機能について】

- ・美術館内にカフェスペースやアートショップがあると、鑑賞後もゆったりとした気持ちで過ごせる。
- ・駐車場から美術館までの導線に工夫はできないか。
- ・HP のデザインが役所的で楽しめない。独自のアーティスティックなものがほしい。
- ・様々な世代の体験学習ができる空間、部屋、広場がほしい。

○平成 30 年 3 月 20 日平成 29 年度第 3 回美術館協議会

【今後の美術館の方向性について】

- ・入場料を払わなくてもよい公共スペースなど、気軽に美術へ足を運んでももらえる場にしていけることが必要と思う。
- ・ギャラリートークのボランティア育成・鑑賞ワークショップ・アウトリーチ活動などにももっと目を向けてほしい。
- ・外部スタッフ、ボランティアの人材育成をしていく必要かあると思う。
- ・金沢 21 世紀美術館は、年間 255 万人の来客者数を誇り国内でも特筆すべき美術館であると思う。集客のノウハウ、企画等を学ぶ必要がある。
- ・就学前の子供から高齢者まで参加して楽しめる企画をしてほしい。
- ・キュレーション、教育普及活動、コレクションの調査・研究は美術館の重要な柱なので、専門のスタッフが長期間、携わることが大切と思う。
- ・小学校と連携し、浜松城公園に来た際、美術館にも来てもらうようしてはどうか。

【施設機能について】

- ・ショップ、カフェ、図書館、工作室など展覧会をみなくても気軽にアートを楽しめる空間を充実させてほしい。
- ・美術館の駐車場整備、駐車場と駐車場への道の整備を早くやってもらいたい。
- ・社会への貢献（ハード、ソフト面でのバリアフリー化、施設・コレクションをどのように市民に鑑賞してもらうか等）を検討してほしい。
- ・図書館を入れたり、音楽をやったり、都市公園型になっていった方が良いと思う。

○平成 30 年 8 月 7 日平成 30 年度第 1 回美術館協議会

【今後の美術館の方向性について】

- ・テーマを決めて収蔵品を活用することで、よい見せ方ができると思う。上手く活用してほしい。
- ・館蔵品が 7000 点もあること自体市民が知らないと思う。いかにして浜松にこうしたものがあることなど、興味・関心を持ってもらうことに取り組むかが大切と感じる。
- ・収蔵品を出す場所・見せる機会の工夫をして取り組んで欲しい。
- ・収蔵品のデジタルアーカイブ化を進めてほしい。
- ・夏休みの時期に子ども達に関心を持ってもらえる企画を考えてくれて嬉しい。
- ・ただ見るだけでなく、子どもたちの記憶に残る体験活動は良いと思う。
- ・子どもの頃の経験は数年後や次に繋がる。ワークショップなどの企画は、1 回でも足を運んでもらう“ワクワクする”ような“きっかけ作り”も良いと思う。
- ・子どもの市展により幅広い子どもたちの年代に来てもらうきっかけになればと思う。
- ・展覧会の企画を考える際、絵画などの美術以外に建築関係のアートを入れるなど、幅広いジャンルに枠を広げてみるのも良いと思う。
- ・観覧者が少ない展覧会を含め、広報的側面を振り返って進めてほしい。

【施設機能について】

- ・美術館に来るのに、なかなか駐車場が分かりづらい。また、美術館への案内表示も工夫してはどうか。
- ・駐車場が狭くなったと感じる。美術館側に人の流れが来ていない。浜松城公園からいかにしてこちらに呼び込むか、案内看板などの工夫が必要と思う。
- ・団体とかグループに貸し出すことによって集客につながるのでは。

○平成 30 年 11 月 13 日平成 30 年度第 2 回美術館協議会

美術館運営についての考え方（案）について意見

【主な意見】

- ・考え方は 4 つの側面で網羅されているのでいいと思う。
- ・美術館の運営を充実していく、というふうでこうした内容の方針で良いと思う。
- ・内容的にボリュームがあり、全てを同時にスタートするのは厳しいと感じる。
- ・常設展や無料エリアは良い。ただ、施設を活かした考え方ではあるが、現在の施設の中で十分に実施するのは難しい部分もあるのではないかと。
- ・いかに美術館に足を運んでもらうかに取り組んでいくべき。そして、芸術って楽しいんだと感じてもらえる、自分で生み出してみたいと思える、そんなきっかけ・入り口があったらいいと思う。
- ・ここ浜松で優れた作品の展覧会を開いてほしいし、地方ならではの部分も大切だと思う。大都市と異なり浜松では作品をまじかで鑑賞できるなど、ハンデを逆に活かしてほしい。
- ・美術学習では対話型の鑑賞等を学生などへ行ってほしい。
- ・それぞれに施設目的は異なるが、芸術の発信という面で同じ方向を向いている。個々の文化施設や他分野の連携を含め良いと思う。
- ・皆さんの意見の中で容量が足りない意見があった。それぞれの項目を見ていくとスペースを増やす、美術館を大きくしていかないと話しが進んでいかないと感じた。ハード的な部分を増やしていくことも含めて話しを進めてはどうか。

(2) 来館者アンケート

浜松市美術館 来館者アンケート

空調機器等の改修後、平成30年度の春に開催した「日本洋画150年展」・夏に開催した「西洋絵画の世界展」・秋に開催した「西洋絵画の世界展」において来館者にアンケートを実施した。

1 アンケート概要

○展覧会名	春「日本洋画150年展」	夏「近藤喜文展」	秋「西洋絵画の世界展」
○観覧者数	17,773人	43,874人	9,331人
○回答者	325人 (1.9%)	817人 (1.8%)	290人 (3.1%)
○アンケート用紙	Aタイプ	Bタイプ	Bタイプ
○回答方式	記載台 (自由記入)	記載台 (自由記入)	記載台 (自由記入)
○開催期間	H30.4.14~H30.6.6	H30.6.23~H30.9.9	H30.9.22~H30.11.11
○調査	H30.4.14~H30.6.6	H30.8.4~H30.9.9	H30.9.22~H30.11.11

2 アンケート項目

- A・B共通項目 ①住まい、②性別、③年齢、④展覧会満足度
⑤展覧会を知ったきっかけ、⑥施設に望むもの、⑦スタッフ対応
- 個別項目 Aタイプ (日本洋画150年展)
⑧駐車場への意見
Bタイプ (近藤喜文展・西洋絵画展)
⑨来館回数、⑩作品の理解を深めるもの、⑪鑑賞後の予定

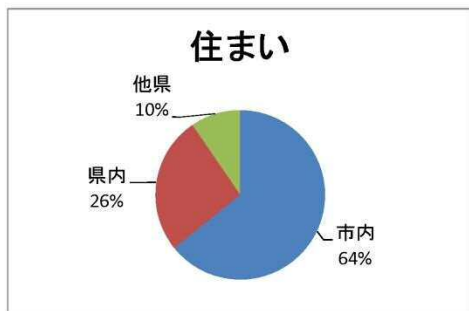
3 集計

- 洋画展同士の比較 春「日本洋画150年展」 - 秋「西洋絵画の世界展」
①住まい、②性別、③年齢、④展覧会満足度
⑤展覧会を知ったきっかけ、⑥施設に望むもの、⑦スタッフ対応
⑧その他…駐車場への意見 春「日本洋画150年展」のみ
- アニメーション展—洋画展の比較
夏「近藤喜文展」 - 秋「西洋絵画の世界展」
①来館回数・②理解を深めるもの、③観覧後の予定について

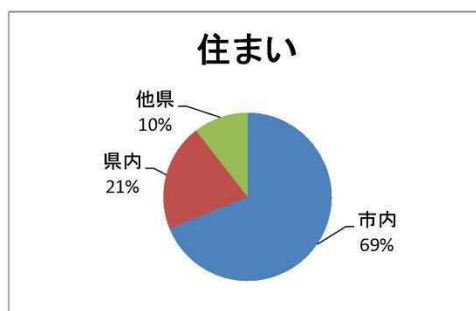
【洋画展同士の比較】 両展覧会 共通項目

○春「日本洋画150年展」
開催：H30.4.14～H30.6.6

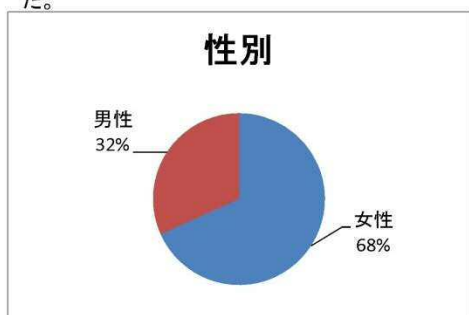
○秋「西洋絵画の世界展」
開催：H30.9.22～H30.11.11



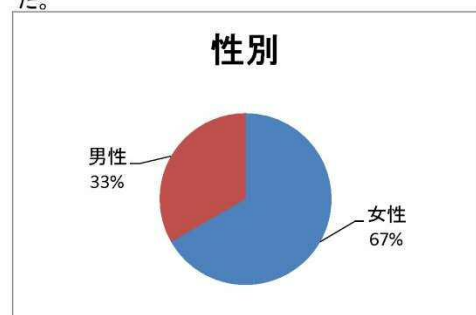
来館者は、市内から64%、市外から36%となった。



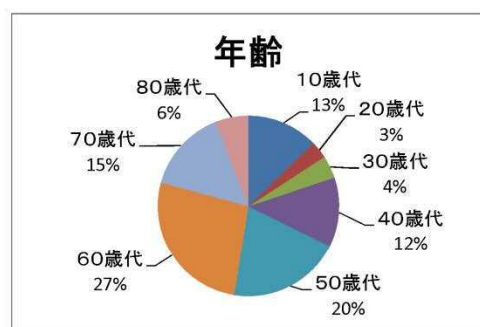
来館者は、市内から69%、市外から31%となった。



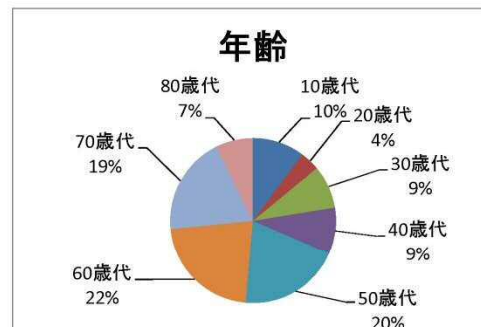
性別は女性68%、男性32%となった。



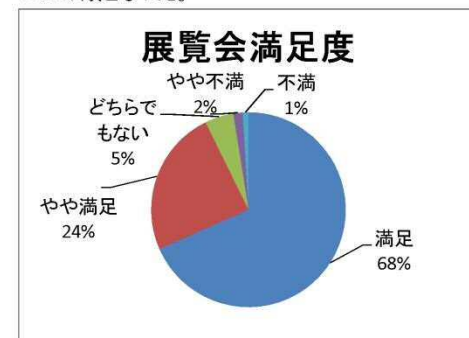
性別は女性67%、男性33%となった。



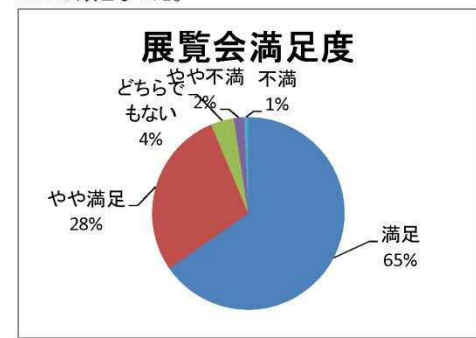
年齢は、60歳代27%、50歳代20%、70歳代15%の順となった。



年齢は、60歳代22%、50歳代20%、70歳代19%の順となった。



展覧会の満足度は、満足68%、やや満足24%となった。

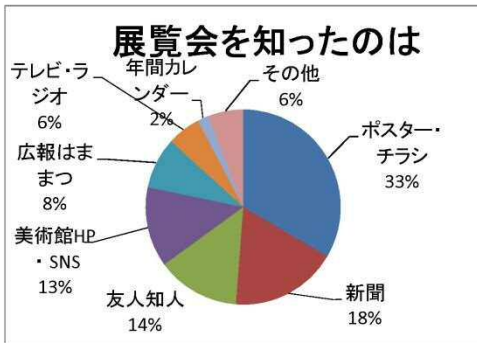


展覧会の満足度は、満足65%、やや満足28%となった。

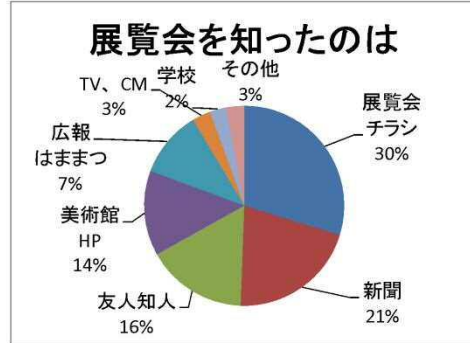
【洋画展同士の比較】 両展覧会 共通項目

○春「日本洋画150年展」
開催：H30.4.14～H30.6.6

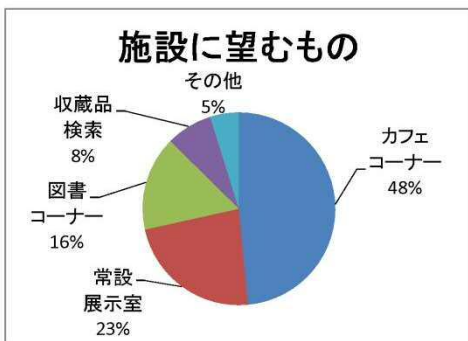
○秋「西洋絵画の世界展」
開催：H30.9.22～H30.11.11



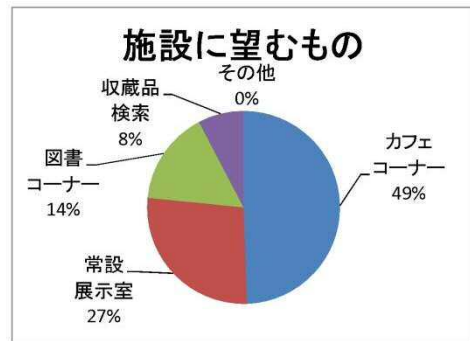
展覧会を知ったのは、ポスター・チラシ33%、新聞18%、友人知人14%の順となった。



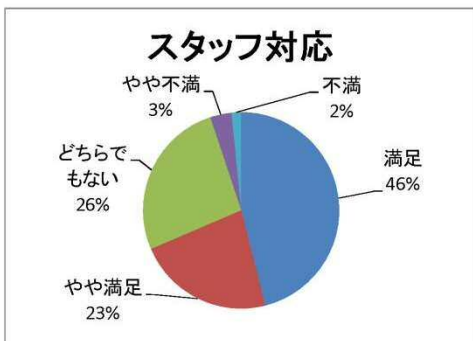
展覧会を知ったのは、展覧会チラシ30%、新聞21%、友人知人16%の順となった。



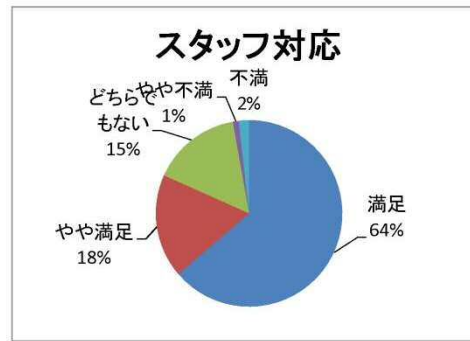
美術館施設に臨むものは、カフェコーナー48%、常設展示室23%、図書コーナー16%の順となった。



美術館施設に臨むものは、カフェコーナー49%、常設展示室27%、図書コーナー14%の順となった。

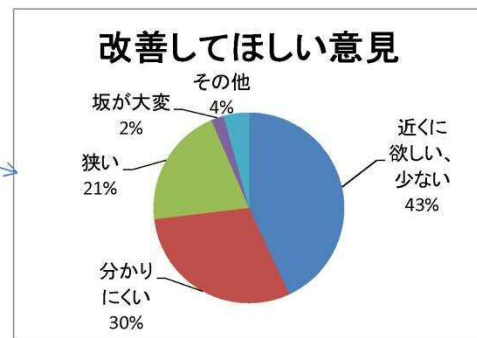
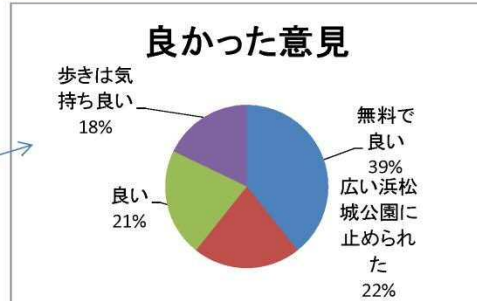
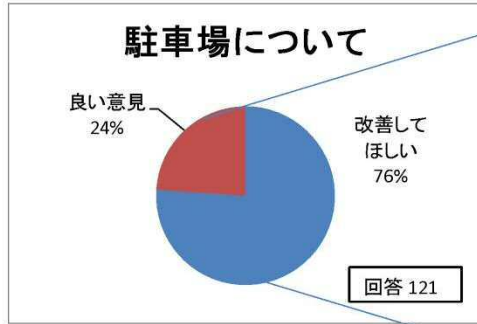


スタッフの対応は、満足46%、やや満足23%となった。



スタッフの対応は、満足64%、やや満足18%となった。

○「日本洋画150年展」 H30.4.14~H30.6.6
 駐車場への意見について（回答121件）



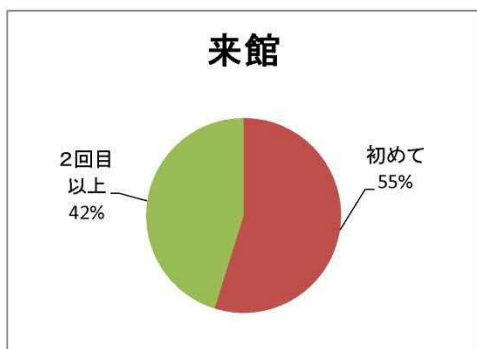
アニメーション展－洋画展の比較

個別項目

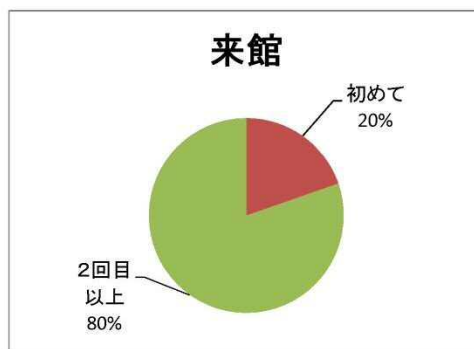
来館回数・理解を深めるもの・観覧後の予定について

○「この男がジブリを支えた 近藤喜文展」

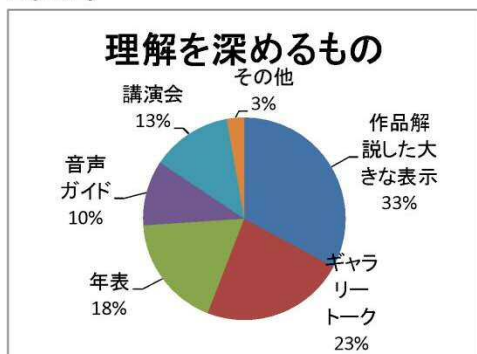
○「西洋絵画の世界展」
開催：H30.9.22～H30.11.11



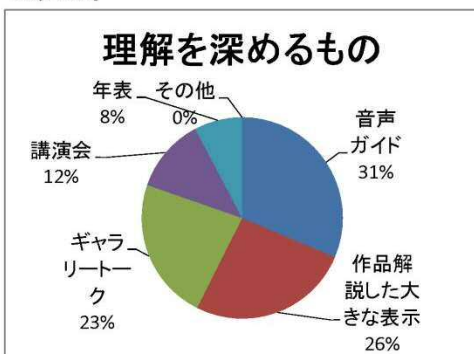
来館は、初めての方55%、2回目以上の方42%となった。



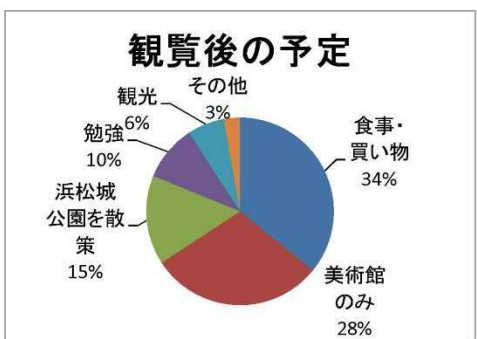
来館は、初めての方20%、2回目以上の方80%となった。



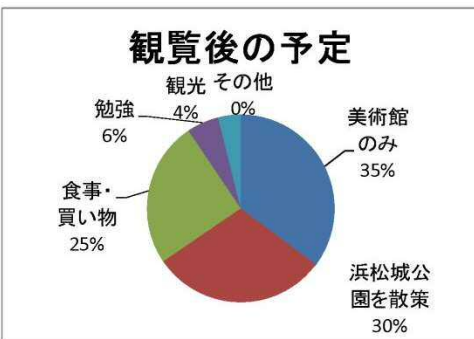
理解を深める内容は、作品解説した大きな表示33%、ギャラリートーク23%、年表18%の順となった。



理解を深める内容は、音声ガイド31%、作品解説した大きな表示26%、ギャラリートーク23%の順となった。



観覧後の予定は、食事・買い物34%、美術館のみ28%、浜松城公園散策15%の順となった。

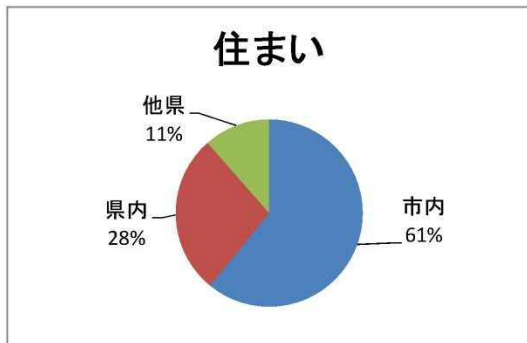


観覧後の予定は、美術館のみ35%、浜松城公園散策30%、食事・買い物25%の順となった。

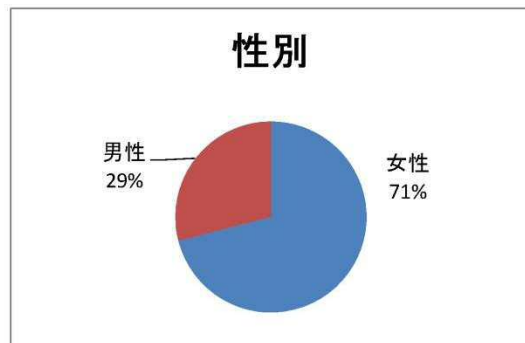
○夏「この男がジブリを支えた 近藤喜文展」
開催：H30.6.23～H30.9.9

浜松市美術館 来館者アンケート

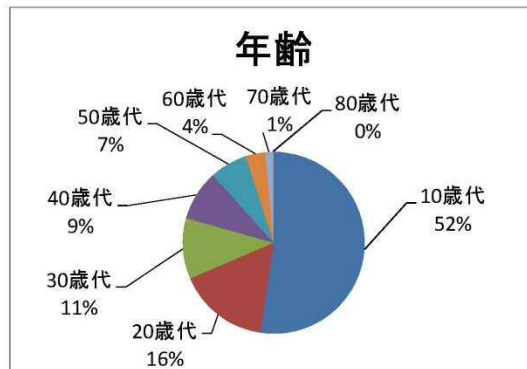
開催期間 H30.6.23～H30.9.9 調査 H30.8.4～H30.9.9
観覧者数 43,874人 アンケート用紙Bタイプ回答者 817人(1.8%)
自由記入方式



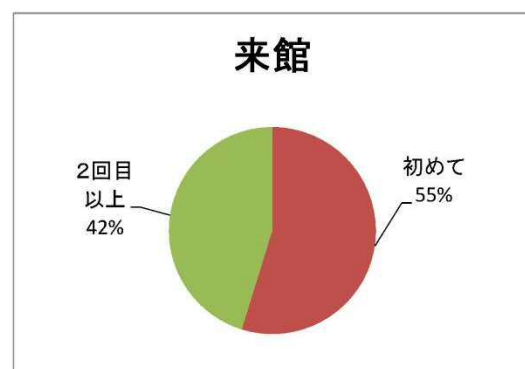
来館者は、市内から61%、市外から39%となった。



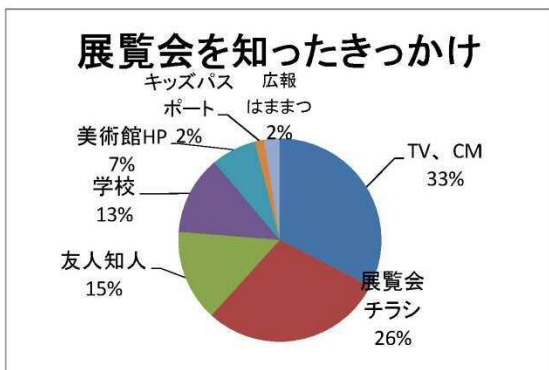
性別は女性71%、男性29%となった。



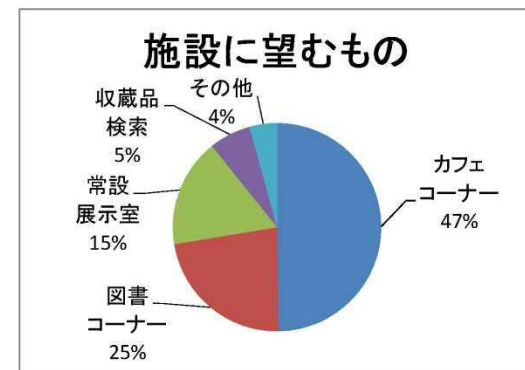
年齢は、10歳代52%、20歳代16%、30歳代11%の順となった。



来館は、初めての方55%、2回目以上の方42%となった。

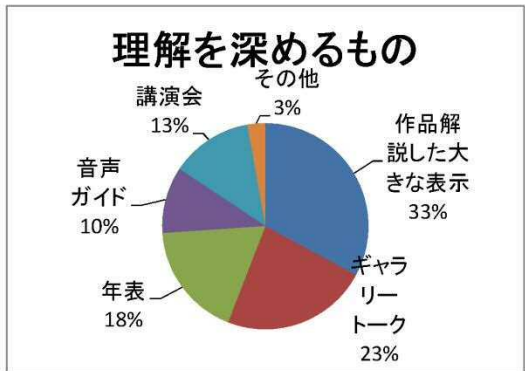


展覧会を知ったのは、TV・CM33%、チラシ26%、友人知人15%、学校13%の順となった。

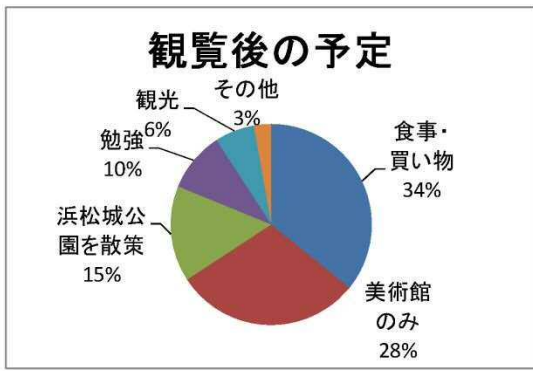


美術館施設に臨むものは、カフェコーナー47%、図書コーナー25%、常設展示室15%の順となった。

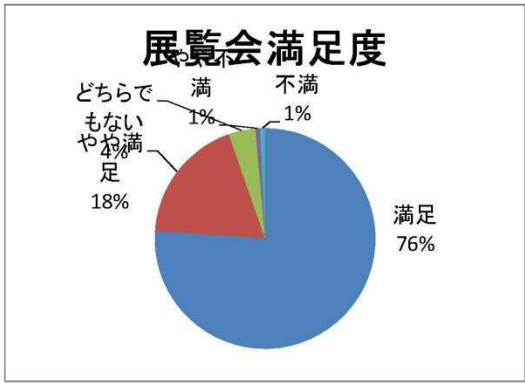
○夏「この男がジブリを支えた 近藤喜文展」



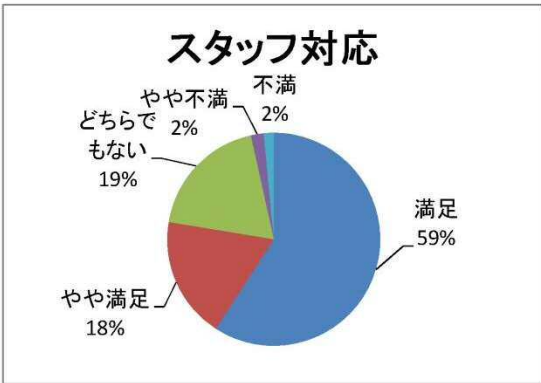
理解を深める内容は、作品解説した大きな表示33%、ギャラリートーク23%、年表18%の順となった。



観覧後の予定は、食事・買い物34%、美術館のみ28%、浜松城公園散策15%の順となった。



展覧会の満足度は、満足76%、やや満足18%となった。



スタッフの対応は、満足59%、やや満足18%となった。